アジアンアクセス・ジャパン レポート 2024年12月号

AsianAccess Japan REPORT

ごあいさつ

アジアンアクセス・ジャパン（A2J）理事長　小平　牧生

クリスマスおめでとうございます。

私とアジアンアクセス・ジャパン（A2J）との出会いは、ちょうど30年前に当時の日本教会成長研修所の研修生に加えていただいたことでした。その交わりの特徴と言いますか、驚いたことは、当時なかなか他のところではお交わりを得られなかった日本基督教団などNCC系の牧師、そしてカリスマ・ペンテコステの背景にある牧師、そして私のような福音派の牧師がいっしょに交わり、語り合い、学ぶことができたことでした。今では信じられないでしょうけれども、当時はそれぞれの所属する教団から、そのような牧師たちと交わると信仰を失ったり、あるいは逸脱すると注意されていたのです。そのような時代を通りましたが、今ではお互いにそのような偏見を持つことなく、互いの愛と尊敬をもって宣教協力の働きが進められる環境が生み出されています。そしてＡ２Ｊはこれからも、神学的立場、歴史的伝統などの多様性を尊重しつつ、指導者の交わりを生み出していくために貢献していきたいと願っています。

さて、そのように宣教協力の取り組みが進められている一方で、カルト的な教会や団体の問題が後を絶ちません。これは教会リーダーに原因のある問題ですから、私たちにとって無縁ではなく、指導者研修を使命とするＡ２Ｊにとっても大切なテーマであると受けとめています。日本のリバイバルまた教会の成長は私たちの祈りであり願いですが、それがいつの間にかリーダーである牧師自身の成功が目的となって、閉鎖的な中で信徒訓練や教会形成が行われ、教会がカルト化していく例があります。Ａ２Ｊとしては、何よりも牧師のインフォーマルな交わりを大切にすることと、これまで研修の一環として行って来たバルバナミニストリーを、リーダーがその生涯を最後まで歩み抜くための必要に応えるための働きとして新たに構築していきたいと考えています。

最後になりましたが、現在、理事会ではリーダーシップ・リニューアルと現地化の方針のもとに理事会またスタッフの態勢を整えています。この度、新年度より山下聖志さんが理事会に加わってくださることになりました。山下さんは山下総合法律事務所の代表であり、宣教の篤いビジョンを持って教会に仕えるクリスチャンです。Ａ２Ｊの働きにご貢献いただけることを感謝いたします。また、2019年まで理事長を務めその後はA2J大使としてご奉仕くださった有賀喜一先生が今年末をもって退任されます。長年の先生のお働きに心から感謝し、またご健康が祝されますようにお祈りいたします。

各種報告

①ローザンヌ宣教大会に参加して　大友幸証

1974年に開催された第1回から今回で４回目の開催となったローザンヌ宣教大会。この大会は世界の福音派に属する教会や宣教団体が協力関係を築くための基盤となる宣言文を毎回作成してきた。この宣教大会の50年の歴史は総じて「ローザンヌ運動」と呼ばれている。

その第一回大会で作成された宣言文「ローザンヌ誓約」の、おそらく最も端的にその宣言文の特異性を表した一文がこの以下の文章であると思われる。

「私たちは、これらの点をなおざりにしたり、時には伝道と社会的責任とを互いに相容れないものとみなしてきたことに対し、ざんげの意を表明する。たしかに人間同志の和解即神との和解ではない。社会的行動即伝道ではない。政治的解放即救いではない。しかしながら、私たちは、伝道と社会的政治的参与の両方が、ともに私たちキリスト者のつとめであることを確認する。なぜなら、それらはともに、私たちの神観、人間観、隣人愛の教理、イエス・キリストへの従順から発する当然の表現にほかならないからである。」（https://lausanne.org/ja/statement/covenant-jaより引用）

この宣言文は根本主義の諸教会が推し進める「言葉」偏重の宣教に対して反省を促している。振り返り、私の育った教会はそのような背景を持つ教会であり、あまり社会が抱える必要に対しては目を向けたり興味を持ったりはせず、トラクト配布などの言葉の宣教に終始していたように思う。

私がローザンヌ誓約を身近に感じ始めたのは、2011年3月11日に起きた東日本大震災の震災支援活動がきっかけだった。私たちの教会は国内外のクリスチャンボランティアたちを迎え入れて、共に支援活動をするように押し出された。混沌とした状況の中、無我夢中でとにかく人々を助けるために私たちは汗を流した。そうすると、その中から救われてくる人々が次々に起こされ、宣教師も次々に送られてくるようになった。今まであまり目を向けられなかった東北宣教に火がつき始めた。「言葉」と共に社会に対する「愛の奉仕」が宣教の働きを大いに強めることを実体験したのである。そして「包括的な福音理解」、「包括的な宣教」というローザンヌ運動がこれまで主張してきた言葉が、諸教会の間で血となり肉となった。日本伝道会議などでもこの点は近年強調されている事柄である。

今回私がローザンヌ宣教大会に参加しようと考えたのは、私達が学んだこの宣教の視点を共有する他の国々の仲間と出会うことだった。しかし驚くことに今回の大会においては、全体会においても、25もあった分科会においても、災害支援や困窮者支援などのテーマが扱われなかった。最初の宣言文から50年が経過した。しかし未だ世界の福音派の諸教会は「包括的な福音理解/宣教」を本当の意味で理解しきれていないように見えた。しかし3.11の震災がなければ、日本の福音派諸教会も未だ昔のパラダイムのままだった。だからこそ「災害大国ニッポン」に置かれている日本の諸教会は、今後のローザンヌ運動において大いに貢献できる分野があると考え期待している。私たちが持つ「災害」という弱さが、他の国々の宣教の働きを強め励ますことができるとするならば、この弱さも捨てたものではない。

②A2J大会2024の報告　秦真道果

2024年11月15日（月）～27日（水）お茶の水クリスチャンセンター(８階チャペル)を会場に、アジアンアクセス・ジャパン大会2024が開催されました。北海道から沖縄まで日本各地また海外からも集い、オンライン参加者もあり150人近い参加者と共に、日本宣教の現在地とこれからを考え祈り合う機会となりました。

まず最初に播師より「炭火から炎へ」というテーマの説明があり、上杉鷹山が藩を建て直すときに、お前が炭火になってくれ、と藩士たちに伝え心の灯火をつけたところから、ここにいる一人一人が炭火となってそれが集まって炎となろうと分かち合われました。

1日目は世界から日本の今を見るということで、9月に韓国で行なわれたローザンヌ大会についての報告から。TCU学長の篠原基章師より今回のローザンヌ大会の意義、歴史、ソウル宣言からも現在の世界の動きが報告され、特に大宣教命令の現状報告から客観的に現状を見ました。今日の問題として弟子化が挙げられ、クリスチャンの大宣教命令への意識が低いことの問題があげらえ、教職者でない教会の99%がいかに弟子として育ち次の弟子を産み育て続ける、ところの難しさと重要性を改めて考えさせられました。その後２人の参加者から具体的に感想と具体的な適用について分かち合いがあり、さらにパネルディスカッションの形で質問に答えながら皆で共に日本の文脈でどう考え動いていくのか考え語り合う時間をもちました。

2日目は、アジアンアクセスジャパン主催の教会指導者研修２期生による研修の報告からスタート。それぞれ牧会の現場から課題を持ち寄り学んでいる中から原則を見つけ出し、日本でキリストの弟子がまず2%になるためにどうしていくのか共に考えています。中でもインドでの海外研修の経験から、短い

証と福音提示で人が次々と救われることを目の当たりにしてきた研修生達は、北海道でも同様の方法で伝道をしました。「牧師が来るから一緒にご飯を食べて話を聞こう」と誘われた女子大生の一人が救われた証とその救われた本人が来られていて、実際の救いの証とその後の霊の戦いが分かち合われ、皆で主を賛美しました。

午後からは、宣教師たちからの質問に答える形式で、Why Japanese Church?と題して、牧師たちによるパネルディスカッション。教会で当たり前と思っていることが実は単なる宣教師時代からの変えていないだけの文化であったり、もっと日本文化を取り入れ日本人になじみやすい教会にするには、と改革を続ける必要を新しい目を持って考えさせられました。

３日目は分科会で、日本におけるリーダーシップや宣教師との協働、教会成長の基本原則等、幅広い学びと語り祈りあう時間がもたれました。播師より昔の宣教師からの手紙の紹介があり今置かれている我々が変えていかねばと燃え立たせられ、最後に理事長の小平牧生師より、一人一人が結び目となってゆくことの重要性が語られました。

平日でありながら教職者だけでなく信徒の参加者もとても多く、教団教派を超えてただ主の御心を求めて教会の現状とこれからを考え祈らされる、とても貴重で各自が動かされる大会となり感謝でした。

③アジアンアクセス・ジャパン教会指導者研修

次回は２０２６年４月から開講

教会成長の８原則を軸としたJCGI研修を刷新し、２０２０年からは指導者の育成に軸を移して教会指導者研修として、新たに始められております。２０２３年から第二期生の研修も１１名の参加者と共に研修が継続されております。先日のアジアンアクセスジャパンにおいて、学習共同体として今後の日本宣教に向けての可能性の発表をしてくださいましたが、共同体として一体感と楽しそうに取り組んでいる様子が伝わって来て、大きな可能性を感じるものでした。２０２５年３月１０－１２日に第二期生の発表をもって修了します。神戸御影の母の家ベテルで開催予定です。お時間ある方はぜひ励ましのためにご参加くだされば幸いです。

当初、２０２５年４月から第三期の募集を始めるべく準備を進めて参りましたが、２ターム終わった今の段階で評価をし、より良いものにしていくために、開講を２０２６年４月へ延期することになりました。現在、第三期の募集は受け付けております。ぜひ、２０２６年４月開講の教会指導者研修に関心ある方をご推薦ください。

教会指導者研修の恵み

練馬グレースチャペル協力牧師・日本CCC代表
江渕篤史師

昨年2023年2月、A2Jのある理事から研修への参加のお誘いがありました。当時、私は協力牧師と宣教団体代表として働きの中で燃え尽きの危機に直面し、参加を断念するつもりでした。しかし、個人リトリートの中で主は研修ビジョンでもある「日本人の2%の人を救いに導く」を通して、主は私の心を変えられました。「このビジョンの実現は人には不可能に思えても、聖霊がこの日本に神への飢え乾きを起こすならば、必ず成し遂げられる！」という信仰が与えられたのです。

こうして主は私を２年間の研修参加へと導き、３ヶ月に１度の宿泊研修を重ねながら、日本各地から集まった11名の牧師とともに学習共同体としての学びと実践が積み重ねられて来ました。

昨年2023年は、特に霊的リーダーシップの成長にフォーカスが置かれていました。『タイムライン作成』を通して、神が私の人生にどのような体験をさせ、今まで導かれたのかを知ることができました。主が私と研修生一人ひとりに特別なご計画を持たれていることを知る中で、互いへの更なる理解と尊敬が深められていきました。また「サーバントリーダーシップ」についての学びや、関西、関東、また北海道での地域教会におけるケーススタディー

も、それぞれが霊的リーダーとしてのあり方を再考させられる貴重な機会となりました。

2024年に入ると、宣教実践にフォーカスが当てられていきました。5月、７月に実施されたインド＆北海道短期宣教を通して、主は私たち学習共同体に共通の宣教体験を与えてくださいました。インドでは人々が毎日のように救われ、家の教会が生み出されていくというダイナミックな聖霊の働きを私たちは見させられました。その宣教実践の日本での適用として導かれた北海道短期宣教では、一人の大学生が救われ、成長していく姿から大きな励ましを受けました。

研修を通して、主はここには書き尽くせない多くの恵みを与えてくださいました。その中で私が最も感謝していることは、互いを「～先生」と呼ぶのではなく、そのままの名前で、また「～さん」「～ちゃん」、ときにはニックネームで気を遣うことなく呼び合える関係へと導かれたことです。年齢や肩書きによる見えない隔ての壁が崩され、お互いを心から尊敬しつつも、主にある友情を育む交わりが与えられました。私たち研修生同士の中に与えられたこの「主の愛」にこそ、日本の教団教派間に立ちはだかる隔ての壁を打ち壊し、御霊の一致から生まれる宣教によって日本人の２％を救いに導くビジョン実現のための鍵が隠されていると感じています。今回このような素晴らしい特別な研修の場を備えてくださった主とA2Jの働きに心から感謝しつつ…。

「…わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」ヨハネ13:34

④U30牧師研修

皆さんのお祈りに支えられて第四期U30牧師研修が行われています。以下の10名の研修生の皆さんがバルナバの先生がたのサポートを受けて、互いに励ましあいつつ研修を進めています。

（以下、順不同、研修生（教会名）バルナバ）
山田成也先生（箕面福音教会）下澤賢司先生
山本守先生（横浜教会）澤村信蔵先生
若山翔也先生（広島栄光教会）ベネディクト・カレブ先生
小池有先生（パークサイドチャペル）寺田雄先生
佐藤創先生（湘南グレースチャペル）勾坂太一先生
後藤真英先生（武生教会）金野正義先生
齋藤航大先生（酒田キリスト教会）松田牧人先生
伊藤悠兄（シオン錦秋湖スタッフ）田所慈郎先生
土居恵理也先生（New Heart Church）大喜多義也先生
小菅翔先生（直江津愛真教会）菅原道夫先生

4月からオンラインでのプレセッションや課題への取り組みを開始しました。
そして、5月20～22日に草加神召キリスト教会を会場に、一回目の宿泊セッションを行ないました。主講師・リソースパーソンに高澤健先生、天野弘昌先生をお迎えしてBeingとDoingともに非常に充実した学びとなりました。

続く9月30日～10月2日に仙台のプレイズコミュニティチャーチ（阿見高洋先生）を主会場に二回目の宿泊セッションを行ないました。こちらでは主講師・リソースパーソンに佐藤彰先生、永井信義先生にお越しいただき、教会形成や説教の取り組みについての多くの学びを得ました。さらに、利府オアシスチャペルを訪ねさせていただき、松田牧人先生から東北の地での教会のリバイタライズについて経験に基づいたケーススタディをうかがうこともできました。

多種多様な研修生が集まり、回を重ねるごとに関係性も深められて良い交わりが与えられています。今後は年明けに関西での宿泊セッション（主講師は豊田信行先生、飯田克弥先生）、そして3月に卒業となるまとめセッションを予定しています。

これからの日本宣教を担う若い世代の働き人のために、どうぞ続けてお祈りとご支援のほどよろしくお願いいたします。

これから始まる働き

AsianAccessJapan REPORT

①バルナバミニストリーが始まります

１９９５年から展開してきたバルナバミニストリーは、今まで教会増殖ネットワークや牧師研修の中で用いて来ました。しかし卒業後にもバルナバタイムは継続して欲しいという声をいただきつつも、なかなか展開できておりませんでした。

この度、JCGI研修の卒業生や今までアジアンアクセス・ジャパンに関わりがなかった方でも、必要を覚える方にバルナバを紹介し、定期的にバルナバタイムを持っていただく枠組みを構築したいと考えております。

このために、様々な世代や教会の規模、地域などからバルナバ役としてご奉仕いただきたく願っております。またバルナバ関係の必要を覚えている方もその旨お知らせいただきたく思います。

来年の春頃を目処に、バルナバ研修会を持たせていただき、アジアンアクセス・ジャパンとしてのバルナバ役の認証を行い、この働きを広く展開して行きたいと考えておりますので、皆様のご意見ご提案をお聞かせください。

②新しい研修に向けて

これまでリニューアルした研修として、若いリーダーのための「U30牧師研修」と、学習共同体による新しい取り組みの「指導者研修」が行われてきました。これらの研修のコンセプトとして、これまでアジアンアクセス・ジャパンとして受け継いできた教会成長の学びについては、既に広く学ばれてきているという認識をもって、「教会成長」へのフォーカスから「リーダー」にフォーカスをあてた形に研修を刷新してきました。

一方で新しい研修を何期か進めていく中で、これまで共有してきた基礎的な理念や原則の学びの機会の必要性も感じるようになってきました。

これを受けて、アジアンアクセス・ジャパンのこれまでの歩みの中で培われてきた理念や教会成長の学びを、現在の日本の教会の状況に合わせてリニューアルして提供し、研修を受けたリーダーの皆さんが各教会・ミニストリーでビジョンを分かち合うための準備ができるような研修を新たに企画することを導かれています。

2025年度はリサーチチームを作りその準備を行ない、これまでの研修との連動も検討しつつ2026年度をめどに開催に向けての用意をしたいと考えています。どうぞ御心に適った研修が備えられますようにお祈りいただければ幸いです。

③宣教協力カタリスト育成訓練会

第７回日本伝道会議においても、第４回ローザンヌ会議においても宣教協力の重要性が語られて来ました。しかし、それぞれの教団教派に、すでになすべきアジェンダがある中で、宣教協力が促進されるために必要な人として、教団教派や宣教団体をつなぐ触媒（カタリスト）だと言われます。

アジアンアクセス・ジャパンとしては、備えられた結び目として貢献すべく、今後日本の教団教派が深いところで宣教協力が促進されるために、ビジョンシナジー(https://visionsynergy.net)と協働しながらカタリストを育成する訓練会を２月に神戸にて開催します。

宣教ネットワークの代表の方や教団教派の代表の方、被災地支援に携わっている方など、関心ある方はぜひご参加ください。関心がある方は事務所までご連絡ください。

以下のようなことについて学ぶ予定です。

1. 宣教協力の聖書的根拠と、それが私たちの証の信頼性に与える影響を理解する。
2. 宣教協力と使命における協力の戦略的役割を説明する。
3. 宣教協力とは何か、また、どのように発展するかを説明する。
4. 宣教協力の利点と障害を評価する。
5. 現在、どのような宣教協力関係が存在しているのかを探り、協力し合うことによってのみ克服できる課題を特定することによって、奉仕における協力関係に対する参加者のビジョンを広げる。
6. 信頼と和解の重要性、そして協力関係におけるリーダーとしての信頼性を新たに強める方法を考える。
7. 今後の可能性のあるステップと神の導きについて共に祈る。

A2J公式HP＆YouTubeチャンネルはこちら

セミナーのお知らせや、過去のセミナーなどのコンテンツをご覧になれます。

公式HP　　YouTube

宣教協力

①宣教ネットワークの働き（主催・共催）

日本各地に宣教ネットワークを通して教会が生み出されていくことを願いつつ、山形宣教ネットワーク、北東北教会増殖ラウンドテーブル、熊本宣教JJクラブ、茨城ミラクルネットワーク、三重宣教ネットワーク、カバレッジプロジェクトなどに関わらさせていただいております。

今後の可能性として、２月に香川県を訪問し、１９５４年からラルフ＆ステラカックス宣教師などによって開拓された教会が、現在どのような状況になっているのかを訪問し、学ぶ機会を持ちたいと考えております。香川県は全ての市町村に教会がある県とされていますが、現状は自立している教会が減って来ており、無牧師教会が増えているとのこと。日本の全ての市町村に教会が生み出されることを願うものとして、また宣教師との協働を考える上で、大切なことを学ぶ機会としたいと考えております。

また、先日１２月３－９日まで、能登地震の被災地を訪問し、泥出しなどのボランティア作業をし、そこにおられる牧師たちと懇談を持ちました。被災地を訪れて知らされたことは、元旦に発生した地震の被災から復興途上で、９月に発生してしまった豪雨災害によって、被災地は振り出しに戻るどころかより深刻な状況になってしまったということです。今からクリスチャンボランティアの必要性が高まると感じました。豪雨災害で家屋が倒壊し流されて、他の家を損傷させてしまったことで係争中の方も多くおられ、被災者同士では震災のときの話はできないと言います。外部のキリスト者が行って、お話を聞かせていただく働きが被災地では求められていると感じました。アジアンアクセスジャパンとしても、能登半島の支援にどのように携われるのか祈りつつ動きたいと思わされております。

岡田仰師
金沢独立キリスト教会牧師
JCGI研修卒業生

辻本眞悟師
金沢グレイスチャペル牧師
JCGI研修卒業生

②宣教師との協働　アデア・ロバート

いつも宣教師チームのための祈りと協力を心から感謝いたします。現在宣教師チームは関東と東北において、教会とネットワークを組み、協力してご奉仕しています。大人２０人以上のチームの中、アメリカ人が多いですが、最近では日本人、カナダ人、台湾人、フィリピン人もいます。１１月のアジアンアクセスジャパン大会には、ほとんどの宣教師が参加できたことを感謝しています。

宣教師は「ヒーロー」でしょうか？多くの場合、宣教師は「ヒーロー」の考え方やイメージになってしまいます。宣教師の目から見ると、自分は神様に呼ばれて、日本人や日本の教会を助けに来ます。２００５年に九州に来た時に私も同じでした。日本の教会も自分達では出来ないから、という理由で宣教師を招くケースがあります。その流れは分かるのですが、原則がズレていると思います。働きが宣教師中心になると、実を結ばない可能性が高くなります。

「ヒーロー」の代わりにどんなイメージが良いでしょうか？最近好きな宣教師のイメージは「肥料」です。正しい季節、量、種類の肥料を用いるなら、収穫が拡大します。そして肥料は忘れられます。宣教師の役割がありますが、人や教会を成長させるのは神様です。（第１コリント３：６）宣教師達は肥料のように日本の教会に協力して実を結ぶように、と祈っています。

会計報告

（2024/1/1～2024/11/30 ）

(収入)22,943,069円
- 一般献金　6,080,882円(個人、教会からの献金)
- 特定献金　1,584,410円(教会指導者研修,U30牧師研修等)
- A3支援金　8,064,904円(業務委託料、U30・教会指導者研修支援等)
- コーナーストーン財団　5,765,155円
- ストラーファンド　1,447,116円

(支出)15,304,075円
- 活動費　7,780,385円(活動費、通信費、消耗品費他)
- 事務所負担　2,509,142円（上戸田事務所家賃）
- 業務委託費　2,640,000円
- 外部献金　2,330,000円

皆様の尊いお捧げものに、心より感謝申し上げます。

アジアンアクセス・ジャパン レポート 2024年12月号
発行：アジアンアクセス・ジャパン
E-Mail：info@asianaccess.or.jp
公式HP：www.asianaccess.or.jp
ゆうちょ銀行振替　00100-8-160549
アジアンアクセス・ジャパン